（ねらい及び留意点）

一マスの６点の弁別のための教材である。基準となる⠿で囲まれた、あるいは⠿に続く四つから違うもの一つをみつける。左右の逆転した形（鏡字）を意図的に盛り込んではあるが、【題材４－11】と同様に、児童の様子を十分に観察しながら、確実にできるようになった題材で確認するなど工夫して支援する。

【題材４－11】と同様に、弁別しやすくするための工夫の一つとして、次のような教材も有効である。二マスを使い、一マス目の④⑤⑥の点と二マス目の①②③の点を一マスに見立てる。そうすると、通常の一マスよりも①②③の点と④⑤⑥の点の間が若干広くなる。⠷ ⠾ ⠷ ⠾ ⠷など、点の数の多い字の弁別は難しいので、以下のような形で提示して学習を進めるとよい。

⠿⠷⠾⠿　⠿⠾⠷⠿　⠿⠷⠷⠿　⠿⠾⠾⠿　⠿⠷⠾⠿

ただし、この場合も点字に触れる指先が同時に一マスの枠組み全体に触れることができるように留意する。低学年児童の小さな指に大きめの点字を与えてしまうと、マス全体に触れようとして上下に探る指の動きが出てしまうのでよくないからである。

両指で一つずつ触知しながら、ゲーム感覚で取り組めるとよい。

確実に弁別できるようになったら、弁別の速さを増すようにする。

違うものを探す際に、「右のだよ、だって下に点がないよ。」「二つ目のだ」「左端のが違う」など、言葉を表出させながら探せるようにし、言葉も一緒に育てる意識をもって指導に当たってほしい。

第４節　点字の形と字音の結び付け

１　点字の形と字音を結び付ける意義

両手読みの動作の習得、行とマスという点字の枠組みの意識化、一マス６点を一つの単位とした６点の組み合わせの弁別の学習が進めば、いよいよ点字の形と字音の結び付けに入る。

点字は、ひらがなやカタカナなどと同じで、表音文字である。また、墨字を目で読み取るように一度に何文字かを言葉として読み取ることは難しく、指先に触知される一マス一マスの字を組み立てて言葉として理解して

いかなければならない。ここに、一字一字を明確に字音に対応させて指導する必要性がある。

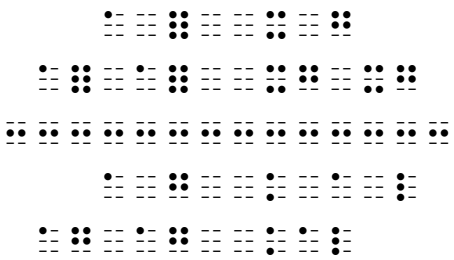
そのようにみてくると、文字の学習に入るためには音声（話し言葉）の基礎学習がなされなければならない。第３節までの題材の（ねらい及び留意点）において、「言葉も一緒に育てる意識をもって指導に当たってほしい。」と繰り返されているのは、この理由からでもある。

２　点字の形と字音を結び付けるための題材例

この節における点字の形と字音の結び付けについては、国語の教科学習に基づいて五十音の順序での提示順とし、点字の点の数や字形による提示順はとらない。これにより、国語科の学習とも連携を密にする。

点の位置の弁別学習を十分に行い、点字の一マスの枠組みが理解できるようにつとめ、安易に文字としての指導に進まないようにすることは前述したとおりだが、児童の状況によっては線たどりの時点で「れれれれ」「ふふふふ」と覚えてしまうことは少なくない。それを否定することはないが、直音（清音・濁音・半濁音）・拗音・拗濁音・促音・撥音・長音など、国語科の学習の進度に合わせて改めて確認させたい。

【点字の形と字音】



（ねらい及び留意点）

点字の形と字音を結び付ける最初の教材として、半世紀以上にわたり本手引きや点字教科書に掲載されている、触れてわかりやすい字形のみで構成した題材である。

読みやすさを考慮し、初めに音ごとにマスあけした言葉を提示し、次にマスあけしない言葉を提示する。

言葉を読むという新しい段階に進むことを意識づけ、「読めた！」とい

う気持ちを喚起して動機づけをするために、五十音の学習に先立って提示する意味は大きい。

【清音の提示の仕方と語例】

以下のように、各音は基準である⠿で囲んで⠿⠒⠿の形で提示する。これは、⠒の点だけでは基準がないため、どの点であるかがわからないからである。

字形と字音とを結び付けながら読んでいくが、その際も指先を立てることなく指の腹を使い、指の上下動を排除して横に滑らせるような読み方ができるよう支援する。

（ア行の字形と該当音から始まる語例）

⠿⠒⠿⠒⠒⠒⠠⠒⠒⠒⠄	⠿あ⠿	あか	あお
⠿⠒⠿⠒⠒⠠⠄⠒⠒⠠⠄	⠿い⠿	いう	いえ
⠿⠄⠿⠒⠒⠄⠠⠒⠒⠄⠒	⠿う⠿	うえ	うお
⠿⠄⠿⠒⠒⠄⠠⠒⠒⠄⠠	⠿え⠿	えき	
⠿⠒⠿⠒⠒⠄⠠⠒⠒⠒⠠	⠿お⠿	おか	おけ

以下、それぞれの行ごとに、該当音から始まる語例を紹介するが、児童が可愛がっているペットの名前や好きな食べ物などの身近な言葉に置き換えるなどして、興味を喚起する言葉集めをしてもよい。その際でも、点字の形と字音はくり返し発音するなどして丁寧に結び付ける。

【カ行】かお　かき　きく　きかい　くき　くい
　　けいこ　こい　こえ
【サ行】さい　さか　した　しお　すし　すいか
　　せき　そと　そこ
【タ行】たこ　たて　ちか　ちち　つち　つき
　　て　てつ　とし　とけい
【ナ行】なす　なつ　にく　にし　ぬう　ぬの
　　ねこ　ねつ　のこす

【ハ行】はな　はこ　ひと　ひなた　ふく　ふね
　　へい　へそ　ほね　ほし
【マ行】まえ　まち　みち　みせ　むし　むね
　　め　めし　もも　もち
【ヤ行】やね　やさい　ゆめ　ゆき　よむ　よこ

【ラ行】らいと　らむね　りす　りか　るす
　　れつ　れい　ろく
【ワ行】わに　わたし　めを　さます　てを　あらう

【五十音表】

日本語の音節は、促音と撥音とを除けば行と段という体系で五十音表に整理することができる。これまで個別に学習してきた清音 45 字を五十音表として提示しその体系を学習する。もちろん、第 1 学年国語の教科書にも掲載されているので関連付けられるとよい。

また、五十音表の学習は、音と対応させながら字形の学習を進めてきたまとめとしてだけではなく、濁音や長音、拗音の学習に進むためにも五十音表の理解を確かなものにしておくことが大切である。

（五十音表を用いた学習例）

①　声に出して読みましょう

五十音表を声に出して読む。全ての点字音を間違いなく読めるようにすることをねらいとせずに、五十音表を指と耳で覚えるような感じで読み進める。教師に続いて読むのもよい。暗唱できるとよい。

②　五十音表をたどりましょう

①で覚えた五十音表を丁寧に指で確認しながら、声に出してたどる。

③　横に読んでみましょう

あ　い　う　え　お　　か　き　く　け　こ　……

行の意識を形成する。大きな声で楽しみながら読めるとよい。

④　縦に読んでみましょう

あ　か　さ　た　な　は　ま　や　ら　わ　……

段の意識を形成する。大きな声で楽しみながら読めるとよい。縦に読むことは初めての学習活動であるので、両手の協応動作を大事にする。教師

が手を添えたりして丁寧に指導する。

⑤　長く伸ばしてみましょう

あー　かー　さー　たー　なー　はー　まー　やー　らー　わー

いー　きー　しー　ちー　にー　ひー　みー　いー　りー　いー　……

重視したい学習内容である。長く伸ばして発音すると、同じ段なら同じ母音が出てくることに気付かせたい。

⑥　同じ部分を探しましょう

五十音表をたどりながら、同じ行には子音の③⑤⑥の一部または全部の点、同じ段には母音の①②④の一部または全部の点があることに気付かせたい。

【撥音「ん」】

撥音の「ん」は、マ行の子音と同じ③⑤⑥の点で表記する。撥音は１拍と数えるので、「ほん」は２拍、「きりん」は３拍、「おんせん」は４拍である。

声に出しながら、字音と字形を結び付ける。「ん」のつく言葉集めをしてもよい。

【濁音・半濁音】

点字では、濁音は濁音符（⑤の点）を清音に前置して表記する。半濁音は半濁音符（⑥の点）を清音に前置して表記する。つまり、二マスで１字を表すことになる。前置するのは、触読の特性からで、清音を先に読んだ後に濁音符があることに気付くのでは正しく読めない。点字の場合、拗音を表す④の点や数字を表す数符など、どれも前置することによって正しい読みを成立させている。

濁る音の言葉も、ア行の言葉と同様に、まずは基準となる⠿で囲んで示し身近な語例を挙げる。語例については、児童の興味・関心を引き出すものを用いたい。

（ガ行の字形と該当音の語例）

⠿⠣⠿　⠿⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣	⠿が⠿　がむ　かがみ
⠿⠣⠿　⠿⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣⠣	⠿ぎ⠿　ぎたー　かぎ

⠛	ぐ　ぐらす　ながぐつ
⠫	げ　げーむ　げんき
⠳	ご　ごま　ごはん

以下、それぞれの行ごとに、該当音から始まる語例を紹介するが、児童の興味・関心を引くような言葉集めをしてもよい。また、濁音符が付いているかどうかで違ってくる言葉を読み比べてもよい。その際でも、点字の形と字音はくり返し発音するなどして丁寧に結び付ける。

なお、連濁・連呼である「はなぢ」「ちぢむ」の「ヂ」と、「てづくり」「つづき」の「ヅ」については、この時点では墨字を使用している児童同様に、語頭にはこないことなどの仮名遣いの詳しい指導はしなくてもよい。

【ザ行】ざる　かざり　じかん　ひつじ　ずきん　すず
　　ぜんいん　かぜ　ぞーきん　なぞなぞ
【ダ行】だんご　くだもの　ちぢむ　はなぢ　つづき　こづかい
　　でんわ　うで　どあ　のど
【バ行】ばす　ばった　びん　ゆび　ぶた　ぶどー　べんとー
　　なべ　ぼたん　りぼん
【パ行】ぱん　らっぱ　ぴあの　てんぴつ　ぷりん　こっぷ
　　ぺっと　ぺんぎん　ぽすと　たんぽぽ

（濁音符の有無による読み比べの語例）
　　ふた―ぶた　さる―ざる　かき―かぎ　こま―ごま
　　てんき―でんき　からす―がらす

【長音】

点字では、長音の表記はかなり複雑である。五十音の列ごとにまとめると、以下のとおりである。

①　ア列の長音は、ア列の文字に「ア」を添える。
　　オカアサン　オバアサン
②　イ列の長音は、イ列の文字に「イ」を添える。
　　オニイサン　オジイサン

③　ウ列の長音は、ウ列の文字に②⑤の点の長音符を添える。
　クーキ　フーセン　ユーヒ　タイフー　ユーキ
＊ただし、動詞の語尾など長音でない語には、長音符を用いない。
　ヌウ（縫う）　ユウ（結う）
④　エ列の長音は、エ列の文字に「エ」を添える。
　オネエサン　ネエ
＊ただし、次のような語はエ列の長音として発音されることもあるが、墨字の仮名遣いと同様に「イ」を添えて書き表す。
　トケイ（時計）　ケイタイ（携帯）　カテイカ（家庭科）
　テイネイ（丁寧）　センセイ（先生）
⑤　オ列の長音は、オ列の文字に原則として②⑤の点の長音符を添える。
　オトーサン　イモート　オーサマ　ガッコー
＊ただし、次のような語はオ列の長音として発音されることもあるが、墨字の現代仮名遣いと同様に「オ」を添えて書き表す。
　よく使う語を次のような文にして覚えておくとよい。
　トオクノ　オオキナ　コオリノ　ウエヲ　オオクノ
　オオカミガ　トオッタ

初学の点字導入の段階で、長音符の使い方をすべて理解することは難しいため、日常的によく使う言葉を例として挙げ、それを読みながら正しい使い方を身に付けていくことが望ましい。その際、教師は正しいはっきりとした発音をするように心がけ、学習状況に応じて、上記の決まりを説明する。また、発音する際も、児童は漢字で確認できないので「トケエ」「１ネンセエ」ではなく「トケイ」「１ネンセイ」と、仮名遣いに準じた発音をする。

また外来語や擬声語に関しては、上記の決まりには合わない。国語科の「カタカナで書く言葉」の題材と関連付けたり、自立活動の時間を含めた学校生活の様々な場面で、折に触れて指導していくことが望ましい。

＊外来語や擬声語の長音符を用いる例
　カード　チーズ　プール　ケーキ　ゲーム　ボール
　カーカー　ブーブー　モーモー

【促音】

点字での促音は、促音符である②の点を清音に続けて表記する。促音は１拍と数えるので、「きって」「まっと」「らっこ」等は３拍、「サンドイッチ」は６拍と数える。

言葉に出しながら、字音と字形を結び付ける。墨字児童と一緒の学習の場合は、墨字ではちいさい「つ」を書くことをこの時点で知らせてもよい。

「ねこ―ねっこ」など、読み比べさせてもよい。

【拗音・拗濁音・拗半濁音】

点字では、拗音は拗音符（④の点）を前置して表記する。拗濁音は拗音符と同じマスに濁音符である５の点を追加する。拗半濁音は同様に⑥の点を追加する。中途障害者の場合は、ローマ字表記のｙが④の点に対応することを説明すると理解が速いが、ローマ字表記の学習は小学中学年である。そのため、初学の児童の場合は、「きゃ」がカ行であり、伸ばして発音するとア段に属することを教師とともに発音して確認しながら、具体的な語例を挙げて指導する。また、拗濁音や拗半濁音の場合は、拗音を理解した後で濁点や半濁点を追加する方が理解しやすい。

（カ行の拗音の字形と該当音の語例）

⠿⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿
⠿きゃ⠿　きゃらめる　きゃべつ
⠿⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿
⠿きゅ⠿　きゅーり　きゅーきゅーしゃ
⠿⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿ ⠿⠉⠉⠉⠉⠉⠿
⠿きょ⠿　きょーしつ　とーきょー

（拗音の語例）

しゃつ　でんしゃ　しゅくだい　うんてんしゅ
しょくじ　きょーかしょ
ちゃわん　おもちゃ　ちゅーしゃ　ちゅーりっぷ
ちょきん　ちょこれーと
にゃーにゃー　こんにゃく　にゅーす　にゅーよーく
にょろにょろ

ひゃく　ひゅーひゅー　ひょーたん　ひょーし
みゃく　みゅーじっく　みょーじ　りゃくず
りゅっく　こーりゅー　りょこー　りょーて

ぎゃく　ぎゅーにく　ぎゅーにゅー　ぎょーざ　にんぎょー
じゃんぐる　じゃんけん　じゅーす　じゅぎょー
じょーず　てんじょー
ゆのみぢゃわん

びゃくや　びゅーびゅー　びょーいん　てびょーし
ぴゅーま　ぴょんぴょん　はっぴょー

児童にとって身近な身体・学習に関するもの、食べ物、乗り物、動物などを掲載しているが、墨字ではカタカナで書く外来語や擬音語も含まれている。

【数字の読み方】

数字は、数符（③④⑤⑥の点）を前置して表す。数字を表す言葉も児童の生活のなかではよく用いられるものである。数符に触れたら数字だなという意識をもって点字に触れるような、言葉かけが大切である。また、数字を表す言葉であっても「ひとつ」「ふたり」「みっか」などの和語は仮名で書いてあることを伝え、学級日誌などの書きの指導に関連付ける。

題材例として次に挙げるが、適切な助数詞を付けて示してある。第１つなぎ符が必要なもの、助数詞によって読み方が異なるものも掲載したが、児童の実態に配慮して活用されたい。

⠼⠁　１ねんせい　　１＿い
⠼⠃　２ばん　２かい
⠼⠉　３くみ　３かくけい
⠼⠙　４がつ　４にん
⠼⠑　５びょー　　５＿えんだま
⠼⠋　６だい　６ぽん
⠼⠛　７じ　　７だい

⠼⠦　８ひき　　８さい
⠼⠴　９まい　　９がつ
⠼⠲⠄　10さつ　　10こ

【特殊音】

「よく使われる特殊音」として平成３年内閣告示『外来語の表記』及び『日本点字表記法』に掲載されている「国語化の程度の高い語」13 種を次に掲げる。

ここまで学習を進めてきた児童にとっては、普段よく使う「ティッシュ」や「ファイル」等はすらすらと読める場合も多い。具体例とともに指導するが、児童にとってなじみのない語例も少なくない。児童それぞれの実態に合わせて、活用されたい。

よく使われる特殊音　13 種

⠈⠣　シェイク　ポシェット
⠈⠣　チェンジ　チェリー
⠈⠣　ビルディング
⠈⠣　コンツェルン
⠈⠣　ファイト　ファイル
⠈⠣　パーフェクト　フェンス
⠈⠣　デュエット　フォンデュ
⠈⠣　ジェットキ
⠈⠣　ティッシュ　パーティー
⠈⠣　モーツァルト
⠈⠣　カンツォーネ
⠈⠣　フィールド　トロフィー
⠈⠣　フォーク

第５節　マスあけ（分かち書き・切れ続き）の基礎的な理解

１　触読導入の学習の最終段階にあたって

前に述べたように、漢字仮名交じり文では、漢字が語の区切り目を表すことが多いため分かち書きをしていないが、表音文字である点字では、語の区切り目を明らかにするために分かち書きをする必要がある。

点字の分かち書きは、文節で区切ることが第一の原則である。文節は、発音や意味のうえで不自然にならないように、文をできるだけ短く区切っ